

TEAM

平成28年熊本地震・支援活動記録

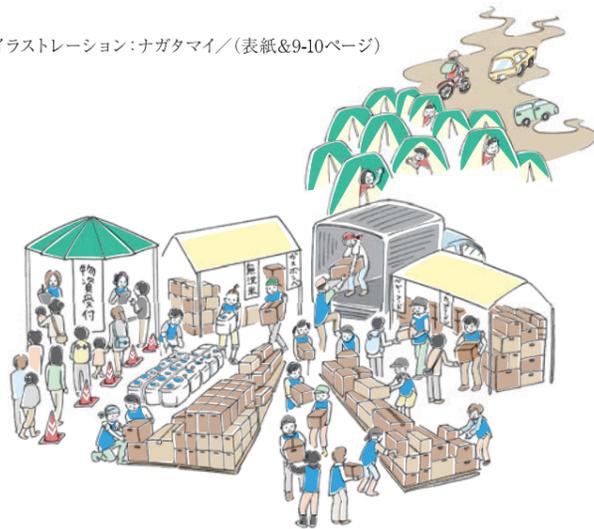


民間のつながりから
生まれた、
新しい支援のカタチ。

熊本へ、そして私たちの活動へ
ご支援をいただいた皆様、本当にありがとうございました。
地震前よりもステキな熊本を目指して
私たちはこれからも“つながり”を大切に歩んでいきます。

熊本地震・熊本支援チーム





東日本大震災の支援活動から すべてはスタートしました。

2011年3月11日、東北関東地方で東日本大震災が発生しました。
「東北の人たちを助きたい」
その思いを胸に、熊本で、民間から、たくさんの有志が集結。
東日本大震災・熊本支援チーム(代表：栗谷利夫)を立ち上げ、
支援物資を集めて被災地へ届けるなど、さまざまな活動を行ってきました。

それから5年後の、2016年4月14日・16日。
最大震度7を2回記録する直下型の大地震が、私たちの地元・熊本で起こりました。
その爪痕は深く、広く、熊本および周辺地域に甚大な被害を及ぼすとともに、
多くの尊い命が失われました。

東日本大震災・熊本支援チームの若手代表だった三城賢士と池田親生は、
熊本地震発生直後から、同チームで活動してきた仲間や地元の友人、親交のある
大学生たちを集め、支援活動をスタート。
迅速かつ分かりやすい支援活動のために、
チーム名を**熊本地震・熊本支援チーム**に変えるとともに、
ほとんどのメンバーが自ら被災者でもありながら、
独自の支援物資の収集、集積、配送、配布活動を行いました。
「ルールではなく、理屈ではなく、目の前に困っている人がいたら、手を差し伸べたい」
そんな素直な気持ちを、そのまま支援につなげていくことを大切にされたチームです。

さらに2016年5月、三城と池田は支援活動の長期化を見据え、
新たに地元の大学生を主体とした支援チーム、**一般社団法人 チーム熊本**を発足。
『崇城大学ボランティアビレッジ』を開設・運営するなど、幅広い支援活動を行ってきました。
一緒に活動した仲間は、すでにチームを作って巣立ち、それぞれに活動しています。
そして何かがあれば、すぐに集まり、力を合わせられるような“輪”ができています。

本誌は、**東日本大震災・熊本支援チーム**、**熊本地震・熊本支援チーム**、
一般社団法人 チーム熊本が行った支援活動を記録するとともに、
民間の“つながり”から“チーム”が生まれ、大きなチカラになったという事例を紹介することで、
今後起こり得る災害への対策の一助になること、
そして地域の防災力や賑わいを高める一助になることを願って制作しました。

最後になりましたが、私たちの思いや活動に共感し、物資・支援金・応援・お手伝いなど、
さまざまな形でご協力いただいた全国の皆様、本当にありがとうございました。
ご支援いただいた皆様も、私たちと同じ“チーム”です。
これからもご支援・ご協力いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

民間のつながりから生まれた、
新しい支援のカタチ。

目次

3	東日本大震災・熊本支援チームの動き
5	熊本地震・熊本支援チームの動き
7	一般社団法人 チーム熊本の動き
9	熊本地震支援活動の概要
11	TEAM座談会01 熊本地震・熊本支援チーム 共同代表 栗谷利夫 熊本地震・熊本支援チーム 共同代表 / 一般社団法人 チーム熊本代表理事 三城賢士・池田親生 熊本地震・熊本支援チーム 事務局次長 荒木真吾
13	団体の概要紹介
15	熊本地震から2週間、激動の日々を振り返る
17	TEAM座談会02 オペレーションチーム
19	TEAM座談会03 大学生
21	TEAM座談会04 筑後物資ベース
23	企業との連携
27	熊本地震・熊本支援チーム&一般社団法人 チーム熊本 これまでの活動
45	TEAMのメンバーが見た、地震後の熊本
51	未来に向けて、これからの活動
53	講演・スタディーツアー・支援金の受付
54	最後に...



東日本大震災

東日本大震災・熊本支援チームの動き



- 2011年 ● 3月11日 14時46分
東日本大震災 発生
- 3月16日
● 熊本市近郊を中心に有志約40人が集結
東日本大震災・熊本支援チームが誕生
● 支援物資集めを始める
- 3月20日
● 4日間で支援物資20tが集まる
約200名のボランティアが協力(場所:宇土市役所)
- 3月21日
● トラックへの支援物資積み込み作業を実施
約60名のボランティアが協力(場所:宇土市役所)
- 3月22日
● 支援物資20tを載せたトラックが熊本を出発
(場所:宇土市役所)
- 3月23日
● 被災地へ支援物資が到着
宮城県仙台市、福島県相馬市、宮城県石巻市などの被災地へ支援物資を届ける。
その際、熊本から現地へ向かった活動スタッフを中心に、行政や自衛隊などの支援が行き届いていない地域や避難所へ物資の配達・支援も精力的に行う
- 4月4日
● 支援物資12tを載せたトラックが熊本を出発
(場所:宇土市役所)

支援物資の内容

◎米 2.5t	◎乾電池 段ボール3箱	◎大人用おむつ 段ボール70箱
◎飲料水(その他飲料含む) 4.7t	◎ゴム手袋 段ボール1箱	◎トイレトイーパー 段ボール200箱
◎毛布 143袋	◎コンロ&ボンベ 段ボール3箱	◎タオル 段ボール30箱
◎衣類 段ボール315箱	◎石鹸 段ボール30箱	◎歯ブラシ 段ボール2箱
◎食料品 段ボール80箱	◎おむつ 段ボール150箱	◎ボックスティッシュ 段ボール10箱
◎赤ちゃん用食品 段ボール28箱	◎生理用品 段ボール150箱	◎ウエットティッシュ 段ボール14箱
◎マスク 段ボール4箱	◎カップめん 段ボール180箱	◎その他生活用品色々 段ボール2箱
◎カイロ 段ボール23箱	◎子ども用おしりふき 段ボール40箱	

支援物資の内容

◎食料品	◎下着(肌着、パンツ、靴下)
◎携帯用歯ブラシセット	◎おむつ(子供用・大人用それぞれ可)
◎ヒゲソリ(T字型)	◎雨合羽・レインコート



東北への派遣チーム



東北での支援活動の様子

- 2012年 ● 3月11日
慰霊祭に竹あかり提供
- 11月6日
● 情報交換会・定期報告会を開催
未曾有の大惨事を忘れないために、そして熊本の災害について考えるために、定期報告会並びに意見交換会を開催。
東北地方の状況や県内での支援の動きの現状を共有すると共に、2012年夏に熊本で起こった白川氾濫での水害などの支援の動きなどについても情報・意見交換を実施(場所:熊本市)
- 2013年 ● 3月11日
慰霊祭に竹あかり提供
- 6月12日
● 情報交換会・定期報告会を開催
東北地方の状況や県内での支援の動きの現状を共有(場所:熊本市)
- 2014年 ● 3月11日
慰霊祭に竹あかり提供
- 5月26日
● 情報交換会・定期報告会を開催
東北地方の状況や県内での支援の動きの現状を共有(場所:熊本市)
- 2015年 ● 3月11日
慰霊祭に竹あかり提供
- 5月18日
● 情報交換会・定期報告会を開催
東北地方の状況や県内での支援の動きの現状を共有(場所:熊本市)
- 2016年 ● 3月11日
慰霊祭に竹あかり提供





熊本地震

熊本地震・熊本支援チームの動き

- 2016年 ● 4月14日 21時26分
熊本地震 前震発生
- 4月15日
 - 対策会議を実施
 - 同時に物資提供もスタート(～8月15日まで)
 - クラウドファンディング「CAMPFIRE」で支援金募集を開始
- 4月16日 1時25分
熊本地震 本震発生
 - 「健軍ベース」(熊本市東区)開設
 - 「筑後物資ベース」(福岡県筑後市)開設
- 4月16日
 - 東日本大震災・熊本支援チームから熊本地震・熊本支援チームへ名称変更
 - 熊本の支援活動を開始
 - NPO法人MAKE THE HEAVEN(メイク・ザ・ヘブンの)
救援・復興支援チームめ組JAPANが合流
- 4月24日
 - 若葉小学校サポート開始(～8月26日まで)
- 4月28日
 - 夢枕プロジェクト開始
- 5月1日
 - ガテン系作業開始
 - 6月20日～8月15日の期間は水害対応の活動も実施
 - 熊本市との物資提供連携開始
- 5月3日
 - チーム熊本発足
 - 「崇城大学ボランティアビレッジ」開設
 - 炊き出し開始(～8月25日まで)
- 5月6日
 - チーム熊本を一般社団法人化
- 5月10日
 - プロジェクト「BRIDGE KUMAMOTO」開始
- 5月15日
 - イベント「熊本の明日を考えるトークセッション」開催

め組JAPANとは
NPO法人MAKE THE HEAVEN(メイク・ザ・ヘブンの)救援・復興支援チーム。MAKE THE HEAVENでは、2010年までに3回の復興支援を行っている(アフガニスタン戦争復興支援・イラン大震災復興支援・新潟中越沖震災緊急支援)。災害が起きた時に、仲間が集い、動き、希望や笑顔を大きくするために出動するチームが「め組」。東日本大震災では、被災者への救援活動、被災地の復興活動を全面的にサポートしていくことを決め、東日本大震災直後からめ組JAPANというチーム名で出動し、現在も活動を継続中。熊本地震直後も、熊本支援チームと協力して活動を開始。



「健軍ベース」開設



「筑後物資ベース」開設



「チーム熊本」設立



「崇城大学ボランティアビレッジ」開設



「BRIDGE KUMAMOTO」開始



- 2016年
- 6月2日
 - 引越しサポート開始
 - 6月4日
 - 「くまモンカフェ@避難所」を開始
 - 6月9日
 - プロジェクト「WING KUMAMOTO」開始
 - 6月15日
 - プロジェクト「anone」開始
 - 6月16日
 - イベント「GAMADAS 00」開催
 - 6月20日
 - 「崇城大学ボランティアビレッジ」が水害で被災
 - 「UP!Field」開始(～10月15日まで)
 - 6月23日
 - ビレッジ近隣住民交流会を開催
 - 7月28日
 - 「くまモンカフェ@仮設住宅」開始
 - 8月25日
 - ベッドシェルターサポートを開始
 - 8月26日
 - 若葉小学校サポート終了(若葉小避難所閉鎖)
 - 仮設住宅におけるニーズの調査を開始
 - 9月8日
 - 北海道へ水害支援物資を発送
 - 9月24日
 - イベント「アカリライブ」開催
 - 10月8・9日
 - イベント「熊本暮らし人まつり みずあかり」へ参加
 - 10月16日
 - 「崇城大学ボランティアビレッジ」終了
 - 11月1日
 - ボランティアビレッジ第2弾「南区ベース」開設
- 2017年
- 1月31日
 - ボランティアビレッジ第2弾「南区ベース」終了
 - め組JAPAN活動終了



そして、現在も被災地のニーズに合わせた活動を継続中です。(2017年6月現在)



熊本地震

一般社団法人 チーム熊本の動き



引越しサポート開始



くまモンカフェ@避難所



「UP!Field」開始



「アカリライブ」開催



「熊本暮らし人まつり みずあかり」参加

熊本地震 支援活動 の概要

掲載内容は2017年3月31日現在

私たちは全国から集まったボランティアの方々と一緒に、多角的に支援活動を展開してきました。その概要をご紹介します。

《第1フェーズ》

《熊本地震・熊本支援チーム》

2016.4.16-5.2

物資支援期

拠点: 健軍ベース (BOY本社ビル)

熊本地震発生後約2週間、熊本市東区美容室を拠点に食糧や生活用品等支援物資の受入・提供や、電話・訪問にてニーズ調査を実施。

約30カ所の物資拠点と連携

- ・BOY本社ビル ・明光義塾 ・東光石油
- ・ほねつぎ ・西区、北区、玉名、筑後ベース
- ・崇城大学ボランティアビレッジ(5/3~)

《第2フェーズ》

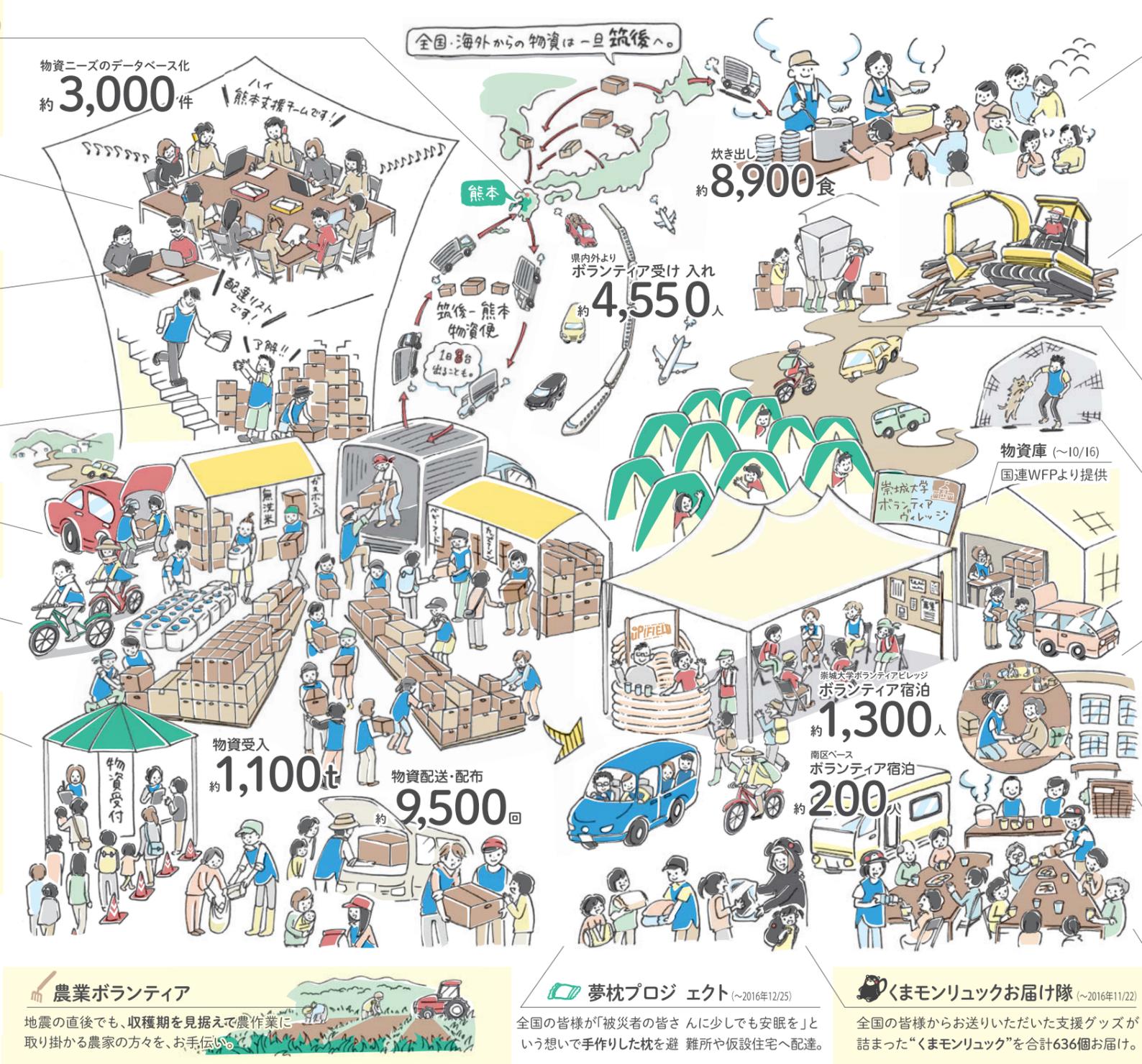
《一般社団法人 チーム熊本》

2016.5.3~

多角的支援期

拠点: 崇城大学ボランティアビレッジ

地震発生後約2週間以降は、ボランティア向け宿泊所の運営、被災地・避難所・仮設住宅での支援活動や、クリエイティブ・スポーツ分野のプロジェクト、復興支援イベントなどを展開。今後も変わりゆくニーズに合わせて活動を継続。



炊き出し (〜2016年8/25)
北海道の「チームやんじー」が、美味しい手料理を熊本市や益城町の避難所を中心にほぼ毎日提供。合計20カ所での提供の他、ビレッジにてボランティアの皆さんにも提供。

ガテン系 地震・水害被害対応 約310件
倒壊した家屋や倉庫から、農機具や家財道具などを取り出す作業。また、重機を使ったテクニカル作業や、瓦礫の撤去、処分場への運搬作業。6月の水害時には、家屋に侵入した土砂のかき出し作業。8月には被災地区のプール運営のサポート。仮設住宅では、被災者のニーズに合わせたDIYを行う。

引越しサポート 約320件
避難所・被災家屋から仮設住宅への引越しの際、荷物の運搬をサポート。

ペットシェルターサポート (〜2016年9/30)
益城町総合体育館に設置の被災ペットシェルター「わんにゃんハウス」運営のお手伝い。

ボランティアビレッジ運営 (〜2016年10/16)
県外からのボランティアの宿泊場所不足解消のため、1泊500円で長期滞在できる宿泊所を運営。交流スペースや物資庫、被災企業の仮事務所も併設。

UP!Field アップフィールド (〜2016年10/15)
ビレッジの交流テント内で、ボランティアや地域住民の交流の場を提供。

避難所・小学校支援 (〜2016年8/26)
主に若葉小学校にて活動。避難所内の清掃・整備、メンタルケアや、避難者と行政の仲介。避難所解散後も個人宅を訪問し、サポートを継続。

くまモンカフェ
避難所や仮設団地の集会所にてお茶会を開き、被災した方の想いを聞き、コミュニティ形成のお手伝いを行う。2017年からは、め組JAPANが独立して運営。

炊き出し 約8,900食

県内外よりボランティア受け入れ 約4,550人

物資庫 (〜10/16)
国連WFPより提供

崇城大学ボランティアビレッジ
ボランティア宿泊 約1,300人

南区ベース
ボランティア宿泊 約200人

夢枕プロジェクト (〜2016年12/25)
全国の皆様から「被災者の皆さんに少しでも安眠を」という想いで手作りした枕を避難所や仮設住宅へ配達。

農業ボランティア
地震の直後でも、収穫期を見据えて農作業に取り掛かる農家の方々をお手伝い。

筑後物資ベース運営 (〜2016年5/30)
熊本への物流の停止を予想し、隣県の福岡県筑後市の会社へ全国から物資を募り、ボランティアのトラックにて、熊本へ配送を繰り返す。

物資コールセンター (〜2016年8月上旬)
物資等のニーズを聞き取り、配送を手配。今後の災害時に活用する為、ヒアリング内容は全てデータベース化。

Webを活用した物資支援 (〜2016年10月上旬)
Yahoo!JAPAN・LOHACO by ASKULと提携し、「応援者がネットで注文した支援物資が、避難所へ直接届く仕組み」を構築し、運用。

物資管理 (〜2016年4/30)
※5月以降は新拠点にて管理
全国から届く大量の物資を種類ごとに仕分けし、配送用・受け取り用に分別。

物資配送
ボランティアスタッフの車で、電話等の依頼に応じ県内全域、各所に配達。

ニーズ調査
車中泊や指定外避難所及び個人宅避難者、仮設団地のニーズを調査する為、自転車や車などでローラー作戦。

物資受け取りサポート
受付に必要な物資と数量をヒアリングした後、ボランティアスタッフが付き添い、必要な物資と一緒にピックアップ。この時の1対1のコミュニケーションが、心境や新たなニーズをヒアリングする大切な機会に。付き添い係の名称は、親しみを込め「友達係」。

～「ありがとう」の気持ちを共有するために～
受付で「物資は必要なだけ、大切に使いましょう」というチーム熊本の想いをこらえ、提供した物資の提供を促すことで、物資提供現場の混乱を抑制。

チーム熊本発・EVENT&PROJECT 掲載内容更新日: 2017年3月31日

2016年 5/15
熊本の明日を考える トークセッション
ボランティアビレッジ内で開催。前編では「地震発生時、大学生はどう動き、これからどう動くのか」をチーム熊本の大学生リーダーで討論。後編では高橋歩氏、四角大輔氏をゲストに迎え、トークセッションを開催。

2016年 6/16
熊本地震復興支援フェスティバル GAMADAS 00
ガマダスゼロゼロ
candleJUN氏・若旦那氏(湘南乃風)をはじめとしたLOVE FOR NIPPONの皆さんによるLIVE。candleJUN氏のキャンドルと、チーム熊本メンバー「ちかけん」の竹あかりのコラボで、ビレッジが温かな灯に包まれる。

2016年 9/24
「今こそ音楽のチカラ」アカリトライブ
GAU-MC氏・ナオトインテライミ氏・ハジメ氏・salyu氏を招き熊本城敷地内に無料ライブを開催。熊本出身のアーティストであるタイチジャングル氏・BOOMDIGI氏も出演。来場者数8,000人。

2016年 10/16
崇城大学 ボランティアビレッジ 終了祭・慰霊祭
ボランティアビレッジの閉鎖に伴い、スタッフやボランティア、支援者など、全国各地から200名以上参加し、活動発表や交流会を開催。同時に地震から半年の慰霊祭も開催。

Bridge KUMAMOTO
ブリッジマモト
bridgekumamoto.com
「創造力は奪えない。」を合言葉に、熊本のクリエイターと県内外の企業や団体をマッチング。クリエイティブの力を使った「熊本の創造的な復興」の架け橋となることを目指す。

WING KUMAMOTO
ウイングクマモト
wingbbwing.wixsite.com/wing
地震の影響により、プレーする環境を奪われた県内小中学校バスケットボールプレイヤーの支援。プロバスケットチーム熊本ヴォルターズと連携し、練習道具や場所を支援。

anone the folk crafts
アノネ
www.anone.co
地震で食器を無くしてしまった被災者と、被災しつつも作品を通して熊本の復興を志す県内の民藝家を繋ぐプロジェクト。熊本の民藝品を全国各地で展示し、webにて発信。



三城 賢士

「ちかけん」共同代表。竹あかり演出家・プロデューサーとして、相棒の池田と共に全国各地で竹あかりの魅力を伝えている

熊本地震・熊本支援チーム 共同代表
一般社団法人 チーム熊本 代表理事
池田 親生 三城 賢士

熊本地震・熊本支援チーム
共同代表 **栗谷 利夫**

熊本地震・熊本支援チーム
事務局次長 **荒木 真吾**



栗谷 利夫

「税理士法人 近代経営」グループ代表。座右の銘は「自然文化歴史ある好感度社会づくり」。積極的に若手グループ支援・育成も行う

私たちが考える

TEAM 座談会 1 meeting no.1

支援チームはどのようにして生まれ、どう広がっていったのか。熊本地震・熊本支援チームとチーム熊本の代表等が振り返ります。そこには「災害支援の在り方」について、確固たる考えがありました。

「行動すること」が何よりも大切

栗谷利夫（以下、栗） まずは私たちの出会いから振り返りましょう。三城君と池田君に最初に会ったのは、今から15年ほど前。まだ君たちが大学生だった頃ですよ。当時、熊本に新しいまつりを創出しようという動きがあり、私はその委員会に参加していました。そ



こで生まれたのが「みずあかり」というまつりです。これは大勢のボランティアと一緒に竹あかりを作り、街を彩るというまつりですが、その竹あかりのオブジェを制作したのが三城君と池田君でした。それから私たちの交流はずっと続いています。

三城賢士（以下、三） 私と池田は大学卒業後、竹あかり演出会社「ちかけん」を起業し、竹あかり

を中心とした地域活性化に取り組んでいました。

池田親生（以下、池） 東日本大震災が発生した翌日、私と三城は軽トラックに乗って被災地へ向かったんです。その時も、栗谷さんに道中、連絡を入れました。

栗 率直に「すごいな」と思いましたよ。その時、世間の大多数の声は、混乱している状況なので「被災地には行くな」というものでした。でも、私は2人にエールを送ったんです。そのことによって、私自身もずいぶん非難されましたけど。でも、私には確固たる想いがありました。それは「行動することが何よりも大切」だということです。阪神淡路大震災の時に、被災された方から聞いた「売名でも利益のためでも、何でもいい。来てくれて、行動してくれることがありがたい」という言葉が、今でも私の根底にあります。どう思われようとも、行動に勝るものはありません。私は、彼らがこれまでいろいろな荒波に立ち向かってきた姿を知っていました。火の粉を払い除けながら進む力があると信じ、背中を押したのです。普通の人間なら絶対に止めましたけど。

池 私にも、背中を押してくれた

言葉があります。被災地へ向かう道中、大阪で日本の社会活動家が集まってミーティングをするという場に遭遇したのですが、そこで出会った人の言葉が心に響きました。「絶対にボランティアでないといけないことがありません。それは計算では分かりません。上に行き、下に行き、右に行き、左に行ってください。必ず役に立っています。それで、被災地へ行く気持ちがいっそう強くなりました。」

三 最初に向かったのは福島県郡山市。そこで米、毛布、水が足りないと聞いたので、市民活動と一緒にしていた荒木にすぐに連絡し、有志を募って、私たちが熊本へ帰って来るタイミングでミーティング

荒木真吾（以下、荒） そこで「支援チームを作ろう」という話になって、それが東日本大震災・熊本支援チーム誕生のキッカケになりました。

東日本大震災での経験が大きな糧に

池 そして2016年4月14日、私たちが暮らす熊本で、熊本地震が発生。その日、私は東京出張中でした。アポイントもあり、熊

築いてきた縦・横のつながりが生命線に

荒 いま振り返ると、自らが被災者という立場で、これだけのボリュームとスピード感のある民間支援の形ができたのは驚きです。実現できた大きな理由は、これまで築いてきた、つながり、にあると思います。

三 そう！ これまで私たちは、同世代、大学生、企業、人生の先輩方と、市民活動や地域活性化への取り組みを通して、確かなつながりを築いてきました。栗谷さんも荒木も、そのひとりです。災害支援につながるなんて考えてもいませんでしたが、結果としては、このつながりが生命線、支援チームのメンバーも、そうやって出会った人たちが中心となって尽力してくれました。

栗 日頃から交流があったことで、私は三城と池田のサポートとして、日本全国・海外の皆様から集まる支援金管理と会計係を担うことになりました。その際に、改めて実感したのが、先輩方のチカラです。地震被害の深刻さが徐々に明らかになるにつれ、活動資金が底をつくのではないかと不安があり、栗

谷さんに連絡しました。すると「お金はいくらかかってもいい。足りなくなったら私たちの世代、経営者仲間どうにかする！ 荒木の判断で使え」と言ってくれました。おかげで活動資金を心配することなく、全力で支援活動に当たることができました。私たちのような若い年代や大学生では、最終的には解決できない事がどうしてもあります。その際に、人生の先輩方の後押しや支援をいただいたことが、今回もとても大きかったと思います。

栗 それはやはり、これまでに築いてきた信頼があったからこそ。活動資金に関しては、荒木君が現場の状況に応じてうまく管理してくれました。こういった場面においては、その道の優れた人に任せることが大事。任せられないとチームはうまく機能しません。

池 私たちも、自分ができることとは人に任せるようにしています。三 竹あかりのまつりの考え方に似ていると思います。まつりにおいては、立場はみんな平等。各自ができることをやってみようという考え方を大事にしています。それが大事なんです。特に**チーム熊本**では、その考え方がベース。現場で感じた二

本へ戻るか悩んで三城に連絡したら「俺たちは地域で仕事をし、表現活動をしているのだから、このタイミングで俺たちが地域にいないのはダメだ」と言われて。確かにそうだなと思って、すぐに仕事をキャンセルして、熊本へ戻りました。それから4月15日の夜に大学生たちとミーティングをして、翌日から支援活動することに決めて解散。眠りについた頃、本震が発生しました。

三 東日本大震災での支援活動の経験から、必ず物資が必要になると考え、まずは支援物資を集めることから始めました。そのためには拠点が必要だと思い、熊本市東区にある美容室BOYさんをお願いして、店舗を支援基地としてお借りしました。

池 その活動と並行して、私と三城君はSNSへ積極的に投稿しました。すると、返せないぐらいコメントがたくさん来て……。どう処理しようかと考え、大学生に任せることにしました。「困っている人」と「支援したい人」とで分けてコメントを整理し、それぞれに対応したのが、組織的な動きとして

ーズに対して、どうすればいいかを考え、支援方法を見つけた人がリーダーとなり、プロジェクトを立ち上げていく。そして、それをチームのみんなが応援していき。その流れを繰り返してきました。おかげで、トップの指示待ちではなく、各自が考え、迅速かつ柔軟に動くことができたと考えています。もうひとつ、**チーム熊本**は「活動の枠を決めなかった。ことも良い結果につながったと思います。役所、消防、自衛隊、各種災害支援団体などは、基本的に活動内容の枠が決まっています。それにより、専門的な支援はできますが、どうしても手が届かない隙間を埋めることを、私たちは大事にしました。やらなければいけない支援を決めない、だからこそ柔軟に対応できる。そういうチームが災害支援には必要だと実感しました。あと、絶対に忘れてはならないのが、県外の仲間や支援者からの支援。私たちの活動は、地元のみならず、全国のつながりだけではなく、全国のつながりの上に成り立っています。本当にありがたいことです。



池田 親生

「ちかけん」共同代表。竹あかり演出家・プロデューサーとして、相棒の三城と共に全国各地で竹あかりの魅力を伝えている



荒木 真吾

「株式会社ディカーナ」代表。各種企画、無線機レンタル業の傍ら、地域づくり・NPOなど幅広い分野で活動している

災害支援の在り方

一般社団法人 チーム熊本

当法人は、平成28年熊本地震において、被災地域や全国の企業・支援団体・NPO等と協働し、被災者の支援、生活再建や被災地域の復興支援活動に取り組むことにより、安全で安心して暮らすことができる社会の形成に寄与することを目的としています。

〈活動内容〉

- 被災地への援助及び救援、支援の事業
- 被災者の生活再建、就業、生きがい創出を支援する事業
- 被災地における産業再建、新規起業を支援する事業
- 被災地における住民福祉の向上と文化の振興を支援する事業
- 被災地の復興及び防災にかかる人材育成事業
- 災害関連情報の収集及び発信事業
- 民間団体、企業、公的機関等とのネットワーク構築事業
- ボランティアの募集、受け入れ、派遣に関する事業
- 復興まちづくりのための調査研究、実践、普及に関する事業
- 災害救援、復興、防災に関する啓発及び広報事業
- 義援金、支援金の募集及び基金運営事業
- 復興支援に関わるチャリティー事業
- 民間団体を育成するための指導助言に関する事業
- 被災地の産業振興、被災者の収入確保、支援団体の資金確保に資する収益事業
- 前各号に掲げる事業に付随又は関連する事業



- 設立 / 2016年5月6日
- ホームページ / <http://team-kumamoto.com>
- 連絡先メールアドレス / info@team-kumamoto.com

熊本地震・熊本支援チーム

(旧名称：東日本大震災・熊本支援チーム)

当団体の前身は、2011年3月の東日本大震災への支援を目的に、熊本県内の有志により結成された東日本大震災・熊本支援チーム(任意団体)です。熊本地震発生直後より熊本地震・熊本支援チームに改名し、地元災害の支援活動を展開しました。震災直後から、全国の多くの協力団体・支援団体の支援・協力をいただきながら、被災地・熊本の民間支援を行ってきました。



2011年3月の東日本大震災支援の様子



熊本地震・健軍ベース物資基地の様子

熊本支援チーム



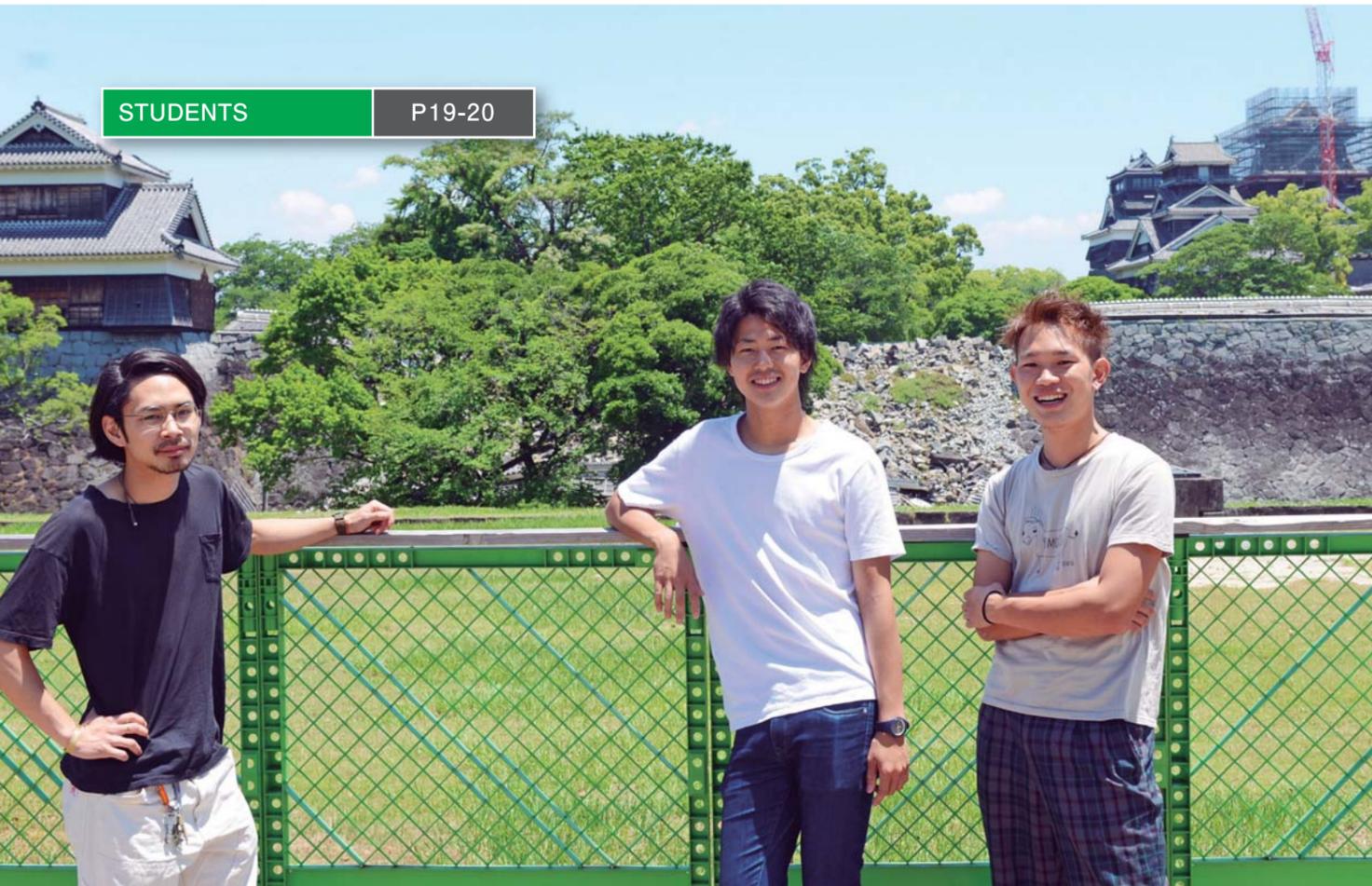
- 設立 / 2011年3月16日
- ホームページ / <http://kumamoto-team.net>
- 連絡先メールアドレス / info@kumamoto-team.net



熊本地震・健軍ベース内の様子

STUDENTS

P19-20



熊本地震から2週間 激動の日々を振り返る

熊本地震発生後、私たちはすぐに行動を起こしました。とはいえ、事前に準備をしていたわけではありません。トライ&エラーを繰り返し、その時にベストと思える方法を各メンバーが考え、改善しながら取り組んできたのです。独自の支援活動を確立するうえで、特に重要な役割を果たしてくれた3つの部門。それぞれのメンバーに、激動の2週間を振り返ってもらいました。

CHIKUGO BASE

P21-22



OPERATION TEAM

P17-18





和泉 信生

「崇城大学」(熊本)情報学部情報学科助教。専門はソフトウェア工学



稲田 悠樹

ドローンパイロット、ライター。ドローン情報サイト『DRATION』運営



和泉 信生

稲田 悠樹

山ノ内 祥訓

情報&動き方を整理したことで

TEAM 座談会 2

Conversation

meeting no.2

TEAM NAME
OPERATION TEAM

支援を必要とする人たちのデータベースを構築

和泉信生(以下、和) 振り返ると私が熊本地震・熊本支援チームに最初に参加したのは2016年4月19日。「情報整理の面で困っており、サポートしてくれる人を探しているらしい」と知人から聞いたのがキッカケです。熊本地震・熊本支援チームの共同代表である三城さんと池田さんとも、2年ほど前から竹あかり関係で一緒に仕事をしていたので、交流はありました。学生と一緒に東区の健軍ベ

ースを訪ねてみると、被災者や支援者に関する情報を書いた紙がすくたまっていて…。避難所に物資を持って行くと、別のスタッフとかち合うなど、動きが無駄に終わることもあったと聞き、何とか改善したいと思っただけです。山ノ内祥訓(以下、山) 私は共同代表のお二人とは面識はありませんでしたが、和泉さんたちと一緒に、熊本地震後に「mizudenu」(http://mizudenu.info/)というサイトをつくり、4月17日に公開したこともあって連絡を取り合っており、一緒にお手伝いすることにしました。ちなみに、「mizudenu

とは、熊本地震で発生した水不足を解消するために、地図上に「水が出なかったところ」「水が出たところ」「水を提供できるところ」をみんなが投稿することで、地震で水が必要な人々に、どこに行けば水が入るのかを周知しようとしたプロジェクトのサイトです。

和 まず、データを整理したいと思いついて、当時は健軍ベースにコンピューターがなかったため、私の研究室にあるコンピューター10台ぐらいを持ち込みました。さらにGoogleドライブといったクラウドシステムのアカウントやパスワードを用意し、紙に書かれた情報を、どのコンピューターからでもデータ入力できる環境にしました。

山 おかげで4月19日からデータ入力はスタートできたと思います。そういうえば、情報を書いた紙は全てスキャンしましたよね。現場にいるスタッフだけでは手が足りなかったたので、リモート(遠隔)で入力業務を手伝ってもらうために、稲田悠樹(以下、稲) 私も健軍ベースに行って「すごく混乱している」と感じました。リーダーがいない、管理はされていない、手

が空いている人がいる。「コントロールする人が必要だ」と思いました。それで、和泉さんと山ノ内さんというシステムづくりのプロがいるので、私は作り上げたデータと現場スタッフとの間に立つ役割を担おうと思っただけです。

和 情報を記入する紙も改善を重ねましたよね。

稲 そうでした。健軍ベースには避難所のリストがあったので、スタッフはそれを見て片っ端から電話して、「何か必要なものはありますか」と聞き取りをしていました。そして、要望に合わせて健軍ベースにある物資を届けて…。その繰り返しによって、避難所の連絡先や代表者、必要な物などのリストを作っていました。書き方を決めていなかったため、メモみたいな状態でした。また、三城さんと池田さんがSNS上で問い合わせ用の携帯電話番号を公開していたので、そこにかかってくる電話の対応にも追われていて、4月22日頃までは、ぼんやりとしたデータになっていたように思います。でも、聞き取りする内容を決めたり、項目を設けたり、専用の記入シートを作ったりと、少しずつ

つ改善をしていったことで情報の質が上がり、整理もしやすくなりました。

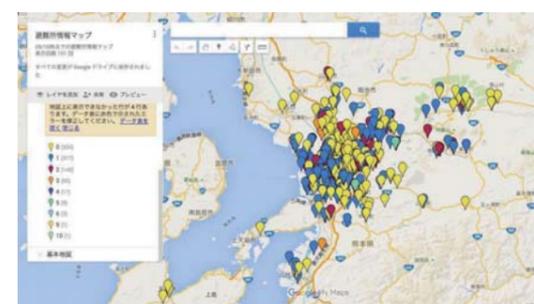
山 そのデータを基に、支援物資を届けた回数が一目で分かる地図も作りましたよね。あれは支援物資を届ける場所を決める際の大きな判断基準になりました。また、他の支援団体にも情報を提供し、その団体が支援先を決める際の判断材料としても大きな意味を持ちましたね。

動き方を整理して 支援物資の受付・配布もスムーズに

稲 データを整理するだけでなく、業務を整理したことも、支援活動をスムーズにしたと思います。和 そう。組織の中の動きをどうするかとか、分業させるとかは、情報学の分野。だから、コンピューターをやる人は、混沌沌としていて、私たちが、混乱した現場の業務を整理したいと思っただけです。稲 だからあって「分業」を徹底しました。パソコンは、できる人がやればいい。電話は、話すのが得意な人がやればいい。力のある人は物資を運び、情報シートをスキャンできる人は、コッソコやる。そうやって業務を分かりやすくして、交通整理をすることで、効率が上がります。スタッフのストレスも軽減できたと思います。そういうえば、電話の受け答えマニュアルも作りましたよね。仕事の流れや内容をできるだけ分かりやすくするために、マニュアルの整備にも積極的に取り組ましました。

山 今回作り上げたシステムやマニュアルは、大きな財産です。でも、これがすべての被災地で活用できるかというと、そうではないと思います。

和 同感です。物として持つて行くと、他の地域ではうまく活用できないかもしれないので、考え方を参考にしてほしいです。マニュアルはこういうふうにしていくことができるとか、情報のプロフェッショナルが支援活動に関わることで問題点が改善していく可能性があるとか。今回の経験でいろいろ考えた方々が進め方を見つけたので、そういうことも伝えていくことも大切だと思います。

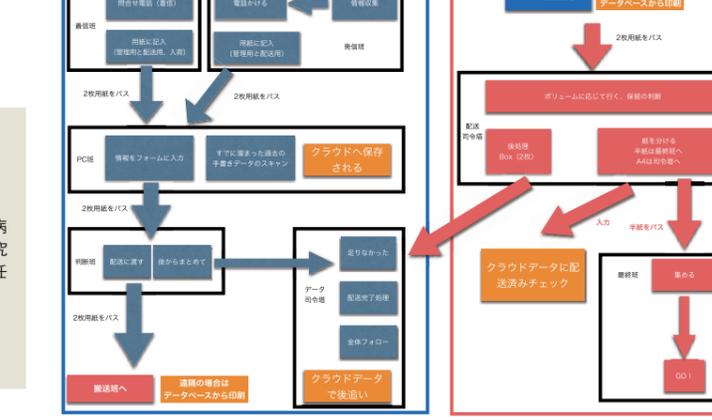


山ノ内 祥訓

「熊本大学医学部附属病院」総合臨床研究部研究データ管理センター特任助教・医療情報技師

山ノ内 祥訓

「熊本大学医学部附属病院」総合臨床研究部研究データ管理センター特任助教・医療情報技師



支援活動の 広がりが加速!



山ノ内 祥訓

「熊本大学医学部附属病院」総合臨床研究部研究データ管理センター特任助教・医療情報技師

TEAM NAME
STUDENTS

Conversation
TEAM 座談会 3
meeting no.3

フットワークが
軽い学生は

**被災者であり支援者。
立ち位置が目まぐるしく
変わった地震直後**

連川裕隆（以下、連） 前震の時、俺は街なかでバイト中だった。
片山広大（以下、片） 俺は回転寿司店で友だちとごはん。お客さんはみんなパニック状態になってた。家に帰ったら、近くのスーパーの駐車場に近隣の住民が避難して、その誘導を自治体の人ひとりでやっていたので、その手伝いを朝までやっていた。
小 俺は家でテレビを観てました。東京にいた頃に東日本大震災を経験していたので、そんなには慌て

なかつたけれど、ひとまず家を出て、同じ高校出身の友人がいるので合流して、それからまた家に帰りました。そうしたら、広大さんから「誘導を手伝ってほしい」と電話をもらったんですよ。
片 小笠原は東日本大震災を経験しているから、パニックにならないだろうと思って、声をかけたんだ。俺の友だちはパニックになってたから。
小 一回は断ったんですけど、やっぱり手伝うことになって、朝になってから家に帰って寝ました。
片 俺は朝から、益城町にバイクで行ったよ。友だちと一緒に、益城町の現状を把握するために。実

は、東日本大震災の時も友だちと「バイクで被災地に支援に行こう」と言っていたんだけど、「行ったらいけない」という声をたくさん聞いて、結局行かなかった。その時の後悔があるから、今回は何できるか分からないけど、行動しようと思ったんだよね。実際に益城町を見て、その状況をフェイスブックで発信していたら、（池田）親生さんから連絡が来て、「夜に支援活動についてミーティングをするから、その時に現状について話して」と言われて。ミーティングで連川に会ったよね。

連 その日、広大到電話したけどすでに友だちとバイクで益城町に行っていたから、俺も別で益城町に入ったんだ。写真で記録することで、役に立てると思って。
小 そして、16日の深夜に本震発生。あの時、俺は菊池市の工場でバイトしてたんですけど、すぐに作業は中止になって。原付で帰ったんですが、信号がひとつもついでなくてすごい怖かったですね。
連 俺は広大の家について、一緒に被災した。

片 前日に寝てなかったんで、俺は激しく揺れているのに寝ていて、「広大、起きろ、死ぬぞ！」って連川たちに起こされて。目を開けたら、なぜか外が見えている。よく見ると、部屋とベランダをつなぐ180センチの大きな窓が、僕の目の前に倒れていた。住んでいた借家は大規模半壊。それからすぐ、前日と同じように近所のスーパーの駐車場に避難した。
連 4月15日夜に行われたミーティングで、翌16日に集まる場所は

**支援拠点に泊まり込み
最前線で支援活動を展開**

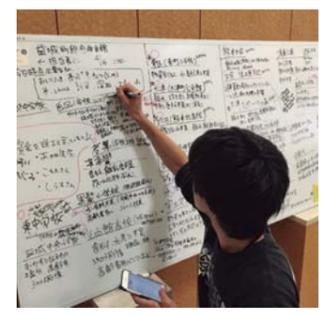
決めていた。だから俺と広大は、避難所にもすることがないのでも、そこに向かったんでよね。でも、予定していた場所は地震で使えなくなっていて、BOYグループ本社ビル（熊本市東区）に集まっているという連絡が来た。それですぐに移動すると、すでに15人ぐらいの人が集まっていたよ。
片 15日夜のミーティングに集まったメンバー、竹あかり演出会社「ちかけん」の人たち、そして筑後市から「橋本」力也さん（竹田）修也さんも物資を持って駆けつけていた。それが16日の夕方。そこから家に帰らず、支援活動の日々が始まったんだよね。届いた物資を降ろして配送車に積んで、その繰り返し。寝たら5分後に物資が来て起きる、みたいな感じだった。たくさんの人たちが物資を持ち込んでくれたので、俺たちもずっと起きていたような状態だった。
小 最初の頃はまだそれほど量ではなかったけれど、日が経つにつれて駐車場がパンクするほど物資が集まってきましたよね。物資をどんどん支給して行かないと追



小笠原 晟一

片山 広大

連川 裕隆



加で届いた分が入らなくなるので、広大さんがバイクで避難所を回って集めた情報をホワイトボードに集約したり、どこに何が必要なのかをSNSを使って調べたり、さらにその物資を必要としている人のところへ持って行くことを、ずっとやっています。

携帯電話番号をツイッターで公開したら200シェアぐらいあって、「そこにたくさん投稿が来て、その内容をホワイトボードに書き続けました。何を必要としているかなど。それで、物資が必要なのころの情報をまとめる担当になりました。」

車場があふれてしまった。ボランティアはSNSで呼びかけたんだけど、本当にすごい拡散力があるんだと感じたよね。
小 僕が驚いたのは、ボランティアに来ていた人たちの間に、旅行で熊本に来ていたという県外の大学生が多かったです。でも、よく考えると、僕も広大さんも県外出身で、自宅や家族を心配しなくていいので、支援活動に全力を注ぐことができたのかなと思って。支援活動では、フットワークの軽い学生、そして県外出身の人たちが大きな力になってくれると実感しました。その人たちとは今でも交流がありますよ。

片 最初は、支援物資がほしい人用の携帯電話番号、支援物資を持つて来ることが出来る人用の携帯電話番号、支援物資を送りたい人用の携帯電話番号をそれぞれ用意し、SNSなどで発信した。そうしたら電話が鳴り止まなくなつて。その後、電話回線を増やしたよね。
小 僕はほとんど自分の携帯で連絡していたので、今も避難所を運営していた人たちの電話番号がた

連 僕の担当は、届いた物資を仕分けて、積み込む部門。どこにどれだけの量を支援するかは、小笠原が集めた情報を基に振り分けるので、それに合わせて物資を準備していく。最初は依頼された分を準備できたけど、物資がどんどん少なくなってきたので、出せる量を考えて調整しながらやっていた。いわゆる在庫管理だね。
片 翌17日には、さらにたくさんの人たちがボランティアに来てくれたよね。それからどんどん人が増え、20日には物資配送を手伝う人がたくさん来てくれたので、駐



小笠原 晟一

東京都出身。当時、東海大学3年。片山広大さんと縁があったことから、熊本地震・熊本支援チーム及び一般社団法人チーム熊本の活動を手伝うようになる

片山 広大

横浜市出身。当時、東海大学4年。三城賢士・池田親生との出会いは中学時代。「ちかけん」が横浜市の商店街に竹あかりを設置した時に縁が生まれる

支援活動の
一翼を担える！





井上 和宏

福岡県筑後市出身。デザイン会社「バスコデザイン」代表。広告・ホームページデザイナーのほか、まちづくりアドバイザー、地域デザイナーなど多方面で活躍

機能したポイントは地域との連携

散して。さらに熊本地震・熊本支援チームから「支援物資は筑後物資ベースに送ってください」という情報が発信されて、テレビやラジオ、ブログなどいろんなメディアで紹介された。そうしたら、ものすごい量が届くようになって、荷物も車も大渋滞。

かかってきて、仕事ができない状態にもなりましたね。反響の大きさにビックリしました。それが本震から2、3日経ったぐらいの頃。どんどん支援物資が集まってくるので、ここを物資の中継地点「筑後物資ベース」とすることに決めました。

井 その頃は各宅配会社が「熊本への配達を停止します」と発表していた時期。合理的に考えれば、手前に集めて、必要なところへそ

の都度持つて行くしか方法が無いからね。本震から3日後には、この付近の道路に全国からの支援物資を満載した大型トラックの渋滞が尋常じゃない規模でできた。ある運送会社からは、「あまりの荷物の多さに対応できないので、支援物資の呼びかけを止めてもらえないか」と言われて、一方で、自社の野球チームを連れてきて荷物の積み降ろしのボランティアをしてくれる会社もあつたり、各ドライバーさんも渋滞に文句を言わず、順番を待ってくれるなど、協力もたくさんしていただきました。

井 物資が増えたことで、配送するトラックとその運転手も足りなくなつたよね。それでもたSNSで「トラックと運転手のボランティアを募集します」と出したら、市内のいくつかの企業が協力してくれました。熊本での受け入れは薫ちゃんに段取りをお願いして、必要とされているものを送り続けた。さらに、荷物の細かい仕分けもSNSでボランティアを募集。そうしたら昼間は主婦の方が来てくれた。他にも、お寺の人、農家さん、個人事業主の方など、動ける大人も来てくれた。本当に助かった。

薫 ボランティアは多い時で1日



筑後物資ベース 責任者 橋本 力也

筑後物資ベース 配送調整リーダー 橋本 薫

筑後物資ベース 責任者 竹田 修也

筑後物資ベース コントロールリーダー 井上 和宏

の度度持つて行くしか方法が無いからね。本震から3日後には、この付近の道路に全国からの支援物資を満載した大型トラックの渋滞が尋常じゃない規模でできた。ある運送会社からは、「あまりの荷物の多さに対応できないので、支援物資の呼びかけを止めてもらえないか」と言われて、一方で、自社の野球チームを連れてきて荷物の積み降ろしのボランティアをしてくれる会社もあつたり、各ドライバーさんも渋滞に文句を言わず、順番を待ってくれるなど、協力もたくさんしていただきました。

のべ3000人ぐらい来てくれて、200人が一堂に会したこともありましたよ。だから、各作業に二人ずつくらいリーダーを置きました。みんなの活躍で上手に運営できましたね。井 しばらくするとトラックが足りなくなってきたから、筑後市役所にかけあって、トラック協会にボランティアをお願いしてもらったのも、大きかったよね。「何日に何台」とお願いすると、対応してくれた。

薫 物資配送もしていただいた隣りの会社さんや地元の人JAさんが、「うちの倉庫も使ってくださいよ」と快く言うてくださったおかげで、雨に濡らすことなく物資を送り届けることができたよね。本当に助けてもらいました。

井 地域や企業の方が協力してくれただけで、そして臨機応変な対応ができる大人がボランティア活動に参加してくれたことが、大きな成果をあげられた理由じゃないかな。そして何より、力也君が筑後

支援物資を届けたい その思いから活動開始

と出ていたのでビックリして……。でも、筑後市は停電も断水もなく、周りは普段通りの生活でした。翌日の4月15日に、(熊本にいる池田) 親生君に連絡したら、その日の夜に支援活動についての会議をするということだったので、参加することにしました。熊本へ行く途中、車に載せられるだけ水などの支援物資を買って行きました。会議では、近々天気が崩れるという予報が出ていたので、ブルーシートを集めて被災した家にかける

活動をしようと思いました。それから筑後市に帰って、修也の店に行つて話をしていたら、本震が来ました。竹田修也(以下、竹) こっちで募金を呼びかけようとか話をしてた時でした。かなり揺れましたね。井 瓶などが倒れた居酒屋とかも多かつたみたい。うちの近所のファミリーレストランは壁が崩れ落ちていた。こっちでも被害はあつたよね。すぐに熊本の支援のため

に何かしたいと思つたけど、情報が徐々にしか入つて来なくて、なかなか状況が分からない。だから最初の2、3日はどうしているか正直分からなかった。力 「支援物資を持つて来てくれたら、俺たちが熊本へ持つて行きます」ってフェイスブックで発信したら、八女・久留米・柳川・大牟田といった福岡県南の人たちがいくつかが持つて来てくれました。その物資を2トトラックに載せて持つて行ったのが、最初の活動でしたね。

井 力也君と修也君が物資支援をしていたので、「俺にもできることないか」って聞いて。そうしたら「情報を発信してください」ってことだったので、それから3日間はデスクの前について、熊本へ向かう彼らに通れるルートを探して

案内したり、SNSでの情報発信をずっとやっていた。力 その頃はまだ届く物資も少なかったけど、被災地は緊迫した状況だ、道は混んでいるし、かなり大変だった記憶があります。この近辺には大学がないので、動ける若い人がいないし、周りは普段通り仕事をしていたので、大人もなかなか手伝ってもらえなくて。とにかく二人でやるしかないと思つて、熊本と筑後市を一日2往復とかしていましたね。井 そうこうしているうちに、大変な状況になってきた。SNSで情報を発信していたら、いくつかの投稿が1000シェアぐらい拡

橋本 薫 (娘:花果)

熊本県出身。三城賢士・池田親生が立ち上げた竹あかり演出会社「ちかけん」の元スタッフ。橋本力也さんと結婚し、現在は筑後市で生活中

熊本まで60km 福岡県筑後市 重要な役割を 果たした中継地点

Conversation

TEAM 座談会 4

meeting no.4

TEAM NAME CHIKUGO BASE



橋本 力也

熊本県出身。東日本大震災の支援活動で福島県に滞在中、三城賢士・池田親生に出会う。仕事の関係で筑後市に移り、竹あかりを通したまちづくり活動「まちあかり会」にも参加



たくさんの人が協力し合う現場でした

Collaboration with the company

企業との連携

株式会社 **シアーズホーム** 様
 税理士法人 **近代経営グループ** 様



case...06



**支援チーム本部事務局での
 電話対応・物資配送情報要員
 として多くの社員を派遣!**



本震災発生の翌日から、**支援チーム**の本部拠点に、熊本の住宅メーカーである**シアーズホーム**(本社・熊本市西区)と、税理士法人**近代経営グループ**(本社・熊本市北区)のご協力で、被災地の各避難所や関係機関との電話連絡、物資配送の情報連絡役として、5月上旬まで連日15名以上の社員の方を派遣いただきました。毎日安定した電話連絡、リサーチ、情報共有、活動展開ができたのも、このような企業様からの安定的な人材支援のご協力があつたおかげです。



株式会社 **ボーイ** 様
 (美容室・BOYグループ本社ビル)

case...04

**支援チーム本部拠点
 場所のご協力**



本震災発生直後から5月上旬までの約3週間にわたり、熊本市内を中心に美容室を展開している**BOYグループ**(本社・熊本市東区)の本社ビル及び駐車場スペースを**支援チーム**にご提供いただき、**支援チーム**の前線本部・物資集配所、ボランティア宿泊場所として使用させていただきました。ここは益城町まで約2kmの場所に位置し、近隣は地震被害が大きかった地域でもあります。このような場所に**支援チーム**の本部を設置できたことで、被災地の様々な情報集約や物資基地としての輸送の利便性が確保できました。

東光石油各給油スタンド 様
 明光義塾各教室 様
 ほねつぎ各店舗 様



case...07

**支援物資の
 配布提供場所に**



支援チームに全国から集まる物資の配布場所として、**東光石油**の各給油スタンド、**明光義塾**各教室、**ほねつぎ**各店舗にご協力をいただきました。そのおかげで多くの配布拠点を設けることができ、効率的かつ広域的に物資の配布提供を行うことができました。

崇城大学 様

case...05

**崇城大学ボランティア
 ブレッジ用地のご協力**



2016年5月からの崇城大学ボランティアブレッジ運営のために、**崇城大学**(熊本市西区)の駐車場敷地を**チーム熊本**へ、10月までの期間無償提供いただきました。全国から集まる災害ボランティアのキャンプ基地として活用させていただきましたながら、情報共有・情報交換の場に、**支援チーム**及び**チーム熊本**の本部事務局機能を兼ね備えるとともに、多くのイベントなども実施しました。



その他、たくさんの方の民間企業様にご協力いただきました。心より御礼申し上げます。

熊本支援チーム チーム熊本

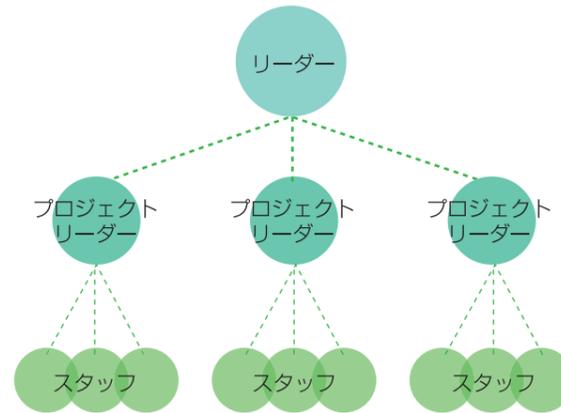
これまでの活動

ここからは、熊本支援チームと一般社団法人チーム熊本がこれまでに行ってきた活動を、「プロジェクト」として紹介していきます。その前に、まずは組織の概要から、多岐にわたる活動を迅速に行うことができた理由は、独自の組織づくりにあります。

**目指したのは
ライン組織ではなく
意志を持った
「チーム」の集合体**

What the team aims for...

上位者と下位者が直接的な関係で結ばれるライン組織。指示・命令が上から下へ流れてくるため、活動は迅速に行われますが、組織が大きくなるほどリーダーの負担は重くなります。また、リーダーが不在の場合、「事が進まない」、「判断ができない」ことも。迅速な行動、臨機応変な対応が不可欠となる支援活動において、この組織形態では無理が生じると考えます。



上位者と下位者が直接的な関係で結ばれるライン組織のイメージ

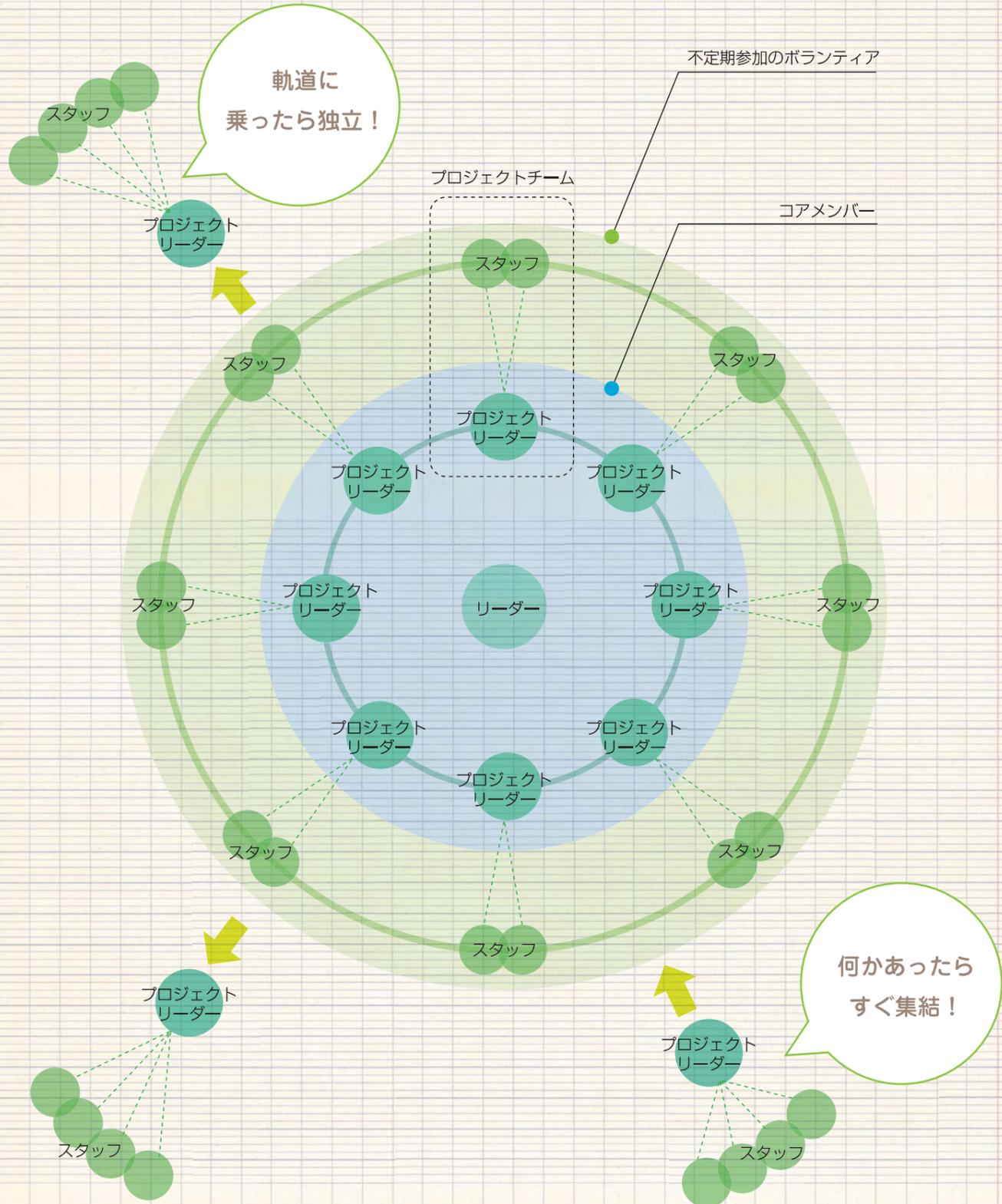
Strong point of team KUMAMOTO

■ チーム熊本の組織 ■

一般社団法人チーム熊本の組織形態は、「チームの集合体」です。まず、リーダーとなる人物（代表理事・三城賢士・池田親生）を中心に、想いを同じくする仲間とチームを編成。ここがコアとなるチームです。さらに、それぞれを「プロジェクトリーダー」と位置づけ、実働チームを編成していきます。コアメンバーは全員一般社団法人チーム熊本の考え方を共有しているため、現場レベルの判断は各自に任せ、報告のみ義務づけます。これにより、迅速かつ能動的な支援活動を展開することができました。また、各プロジェクトリーダーは、「コアチーム」としてつながっているため、「一緒にこんな支援活動しよう」とこの部分を手伝ってほしい」など、相互で連携・サポートすることもできました。

これから、私たちが目指しているのは「チームの自立」です。運営や活動が軌道に乗ってきたプロジェクトチームは、一般社団法人チーム熊本から巣立ち、活動の幅やステージを広げてもらいたいと考えています。それぞれのチームが個々に活動をしながら成長し、必要な時が来ればすぐに集結。チームを編成し、事に当たって行く。そんな組織づくりが、これからの時代は必要だと考えます。

「チームの集合体」としての組織イメージ





物資支援

プロジェクト
01

リーダー
池田 親生
三城 賢士

全国からの支援物資を避難所（被災者）へ必要な物を必要な分だけ届ける。

熊本地震が発生し、震源地付近のスーパーやコンビニ、飲食店などは大きな被害を受け、営業中止に。そこで「県民の生命の維持」を第一に考え、全国から支援物資を募り、物資提供を始めることにした。

活動内容&活動実績

【物資集積拠点の開設】

合計1,100の物資の受け入れを行う。東日本大震災の際に行った支援経験から、物資の集積拠点を熊本市と熊本県外（福岡県筑後市）に開設。

【物資配送】

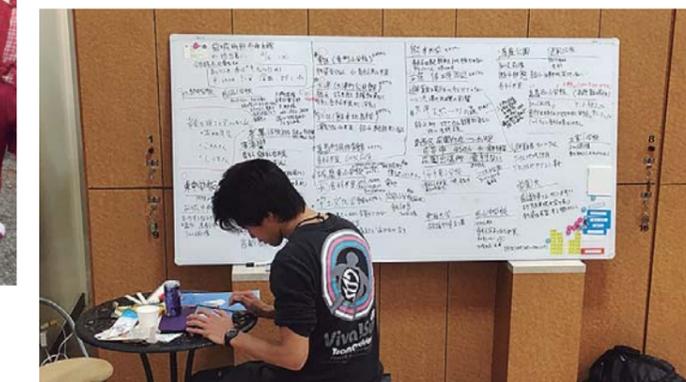
コールセンターを開設して目的ごとに電話番号を設定、情報収集を行う。その情報に基づき、必要な物を必要な分だけ、避難所（被災者）へ届ける活動を行う。

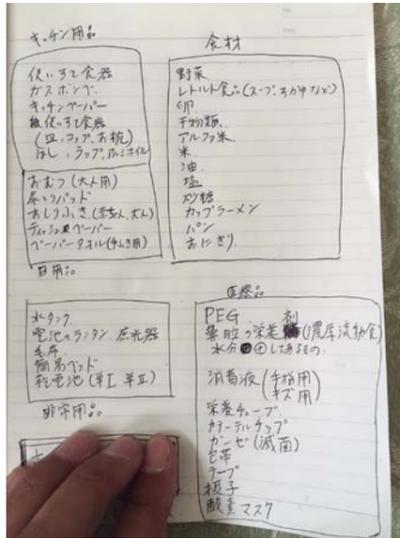
【物資引き渡し拠点開設】

被災者自身が車で移動できるようになった頃、県内約30ヶ所に引き渡し拠点を開設。拠点：明光義塾各教室・ほねつぎ・東光石油各スタンド・西区ベース・D-BOY健康店・崇城大学ボランティアビレッジなど。

【LOHACO応援ギフト便】

アスクル株式会社・ヤフー株式会社と共に新たな物資支援の仕組みを構築し運用。
※詳細は23ページ参照。





情報収集・データベース化

物資支援のためのコールセンターを設置。ローラー作戦によるニーズ調査と情報のデータベース化を行う。

リーダー
稲田 悠樹

物資支援を行う中、現場では業務過多による混乱が起きていた。電話での支援依頼から配達完了まで、担当者はたった1人。そのため、情報の把握や蓄積ができていなかった。支援活動に大事なものはスピード。混乱を解決するために対応マニュアルを作り、データを保管するシステムと運用手順も作成した。

● 活動内容&活動実績

【コールセンターの設置&情報のデータベース化】

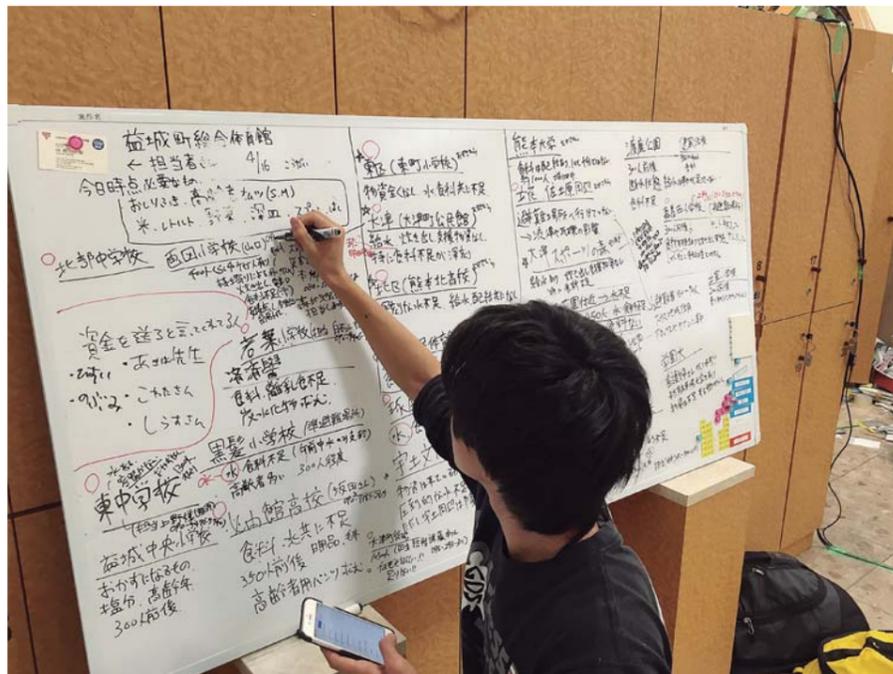
受付の混乱を避けるため、「物資を必要としている人」、「物資を提供してくれる人」、「ボランティアをしてくれる人」それぞれ専用の受付電話番号を設定。SNSやマスコミで公開し、各方面から情報が集まった。それらの情報を基に、必要などころへ必要な物を届ける物資支援を行った。データベース化された件数は約3,000件にも上り、その情報を政府や自治体、他のボランティア団体にも提供。サービスの提供者と受領者のマッチングにも役立っていた。

【ローラー作戦】

現状を知るために、情報収集を行った。移動手段は、自転車や車を使用。車中泊者や指定外避難所、仮設団地を対象に、それぞれのニーズを調査した。



Performance





ガテン

プロジェクト
03



倒壊した家屋から家財道具などを取り出し、
瓦礫の撤去作業などを実施。
水害発生時は、家屋の泥のかき出しや片付けも。

全国から、たくさんのボランティアが熊本のために活動しに来てくれているのを見て、熊本で暮らす私も触発された。こんな時だからできること、このタイミングで今の自分にできることをやろうと決心した。

リーダー
小沢 秀一

● 活動内容&活動実績

【地震被害への対応】

益城町を中心に、重機を使ったテクニカル作業や手作業によって、倒壊した家屋や倉庫から農機具や家財道具など必要な物を取り出した。また、瓦礫の撤去や処分作業、解体前家屋からの家財道具などの撤出・整理・処分作業も行った。

【水害被害への対応】

水害の被害の大きかった宇土市で、家屋や倉庫などに入り込んだ土砂のかき出し作業を実施。また、農機具や家財道具といった必要な物の取り出し作業も行った。





崇城大学ボランティアビレッジ

熊本県外からのボランティア用の宿泊キャンプ場。
ボランティア活動の拠点および
被災した企業の仮事務所にも！

リーダー
連川 裕隆

● 活動内容&活動実績

【ボランティア向けのキャンプ場】

ボランティアが1泊500円で長期滞在できるように宿泊所を運営。テントサイト、車中泊サイト、トイレ、シャワーを完備。大型テント内にカフェ「アップフィールド」を誘致し、ボランティア同士が交流できるコミュニティスペースとして提供。

【ボランティア活動の拠点】

大型倉庫は「国連WFP」より提供してもらう。「チーム熊本」、「め組JAPAN」、「災害支援ネットワーク北海道」、「ヤフージャパン」、「東の食の会(オイシックス)」なども拠点として活用した。

【被災企業の仮事務所】

「サクラキ」、「ちかけん」、「株式会社E」、「日本お米協会」など被災企業の仮事務所として活用。
※2016年10月末までの実績

【ビレッジ内の取り組み】

『崇城大学ボランティアビレッジ』内パーテーションなどには、土を詰めた土嚢袋をブロック代わりに使う“アースバック工法”を採用。安価で丈夫、地球に優しい工法として注目を集めた。また、全国から『崇城大学ボランティアビレッジ』へゲストが駆けつけ、トークセッションや講演会(「熊本の明日を考えるトークセッション」など)、GAMADAS 00などを行った。

宿泊施設の不足により、熊本県外からのボランティアの受け入れができないという問題を少しでも解決し、さらにボランティア団体の活動拠点と、被災企業の仮事務所としても機能するべく開設。ボランティアが活動後にゆっくりと体を休め、疲れが取れるような場所づくりに努めた。



崇城大学ボランティアビレッジ公式ウェブサイト
<http://team-kumamoto.com/village/>





プロジェクト
06

WING KUMAMOTO

バスケットボールを通して、子どもたちの笑顔を取り戻す！
体育館が被災し、活動が制限されている小中学校のバスケット部を支援。
地元プロバスケットボールチーム『熊本ヴォルターズ』と協力して行う。



リーダー
小笠原 晟一

小中学校の体育館が被災し、バスケットボール部は野外での練習を余儀なくされていた。保護者の方から「屋外用リングを購入する予算もなく、困っている」との相談があり、『熊本ヴォルターズ』と協力して、バスケットボール活動支援プロジェクト『WING KUMAMOTO』を立ち上げた。



活動内容&活動実績

【小中学校のバスケットボール部への支援…21校へ実施】

小中学校のバスケット部に対し、屋外用リング・バスケットボールを支援。希望のバスケット部には、『熊本ヴォルターズ』に協力いただき、技術支援としてクリニックを行った。

【2016年8月21日イベント開催】

バスケットボールイベント「江津湖カップ3×3バスケットボールチャンピオンシップ」を開催。合計10チーム・29名の子どもたちに参加してもらい、成功をおさめる。

【熊本ヴォルターズ応援】

ボランティアスタッフとして、『熊本ヴォルターズ』の応援活動に参加。

プロジェクト
05

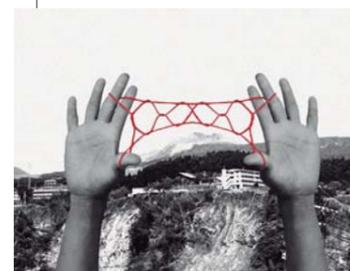


BRIDGE KUMAMOTO

クリエイティブの力を集結し、
熊本の創造的な復興の架け橋を目指すプロジェクト。



リーダー
佐藤 かつあき



BLUE SEED BAG

2016年熊本地震で実際に使われたブルーシートを洗浄して作られたリユース品です。日光や風雨にさらされた生地は、強いダメージを受けているため、バッグとしての強度はありません。また、生地の劣化により、接触した物に色移りしたり、表面やプリントが剥離することがございます。あらかじめご了承ください。復興の糧になるように売上げの一部を被災地へ寄付させていただきます。

REUSE SAD TO HAPPY DONATE



活動内容&活動実績

【クリエイティブ…広告・ウェブサイト・グラフィック・ブランディング・映像制作など】

JAL「どこかにマイル」「JMB×WAON」「JAL×洗陽電機」「JAL×好日山荘」、Music for Kumamoto、ワン九州フェス、SPIKAL、インプレス、FAMILY TREE TAKAMORI、熊本城瓦そば

【イベント…主催および参加・出展】

熊本城アカリトライブ、iPhoneケース展、スカイピクセル、thought 5th、えんとつ町のプペル光る絵本展、ブルーシード大作戦、あやとりチャレンジ無印良品有楽町、「僕らの未来に、なに創る。」、イチのひと、復興BAR、VIDEOGRAPHERS' NIGHT

【プランニング…企画・ネーミング】

Twitter「おしゃれ散歩」、うまい棒「10円のチカラ」、阿蘇神社復興支援、ウナギトラベル、アイデア会議

【プロダクト…商品開発】

ブルーシードバッグ、ブルーシードコーサージュ、ルパルティール、オリジナルグッズ





プロジェクト
08

リーダー
片山 広大

イベント企画・ イベント支援

復興支援イベントの企画運営。
地域のお祭りや他団体イベント
への協力を行う。

ボランティア活動で多くの出会いがあっ
た。その中には、著名なアーティストの方々も
多く、「何でも協力するよ」という声もあったた
め、ビレッジでのイベントを企画したことから
始まった。同時に、地域のお祭りや他団体
のイベントへの協力を行った。



● 活動内容&活動実績

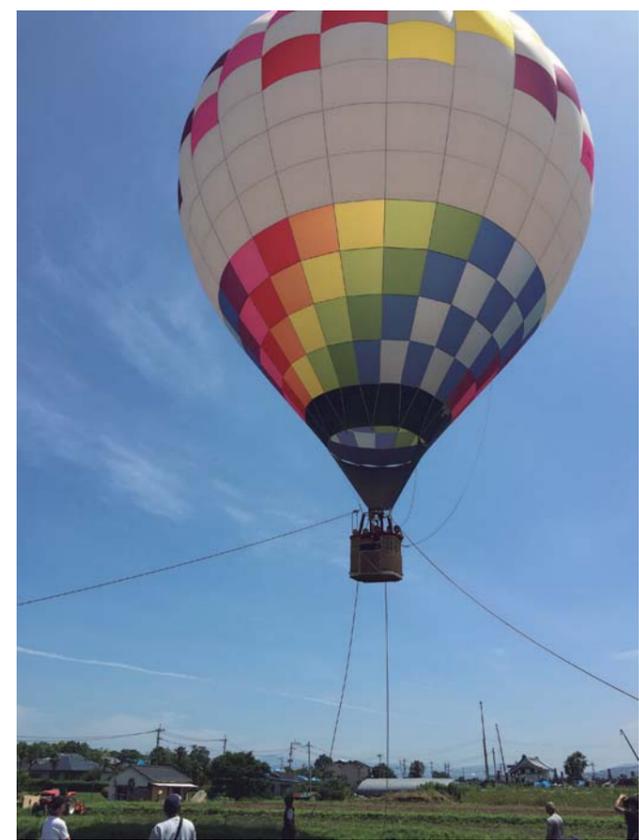
Performance

【主催イベント】

- GAMADAS@ボランティアビレッジ / 実施日:6月16日、来場者:120人
(アーティスト:Candle JUNE、若旦那、細見武士)
- 熊本城アカリライブ@熊本城二の丸広場 / 実施日:9月24日、来場者:8,000人
(アーティスト:ガクエムシー、Salyu、ハジメ・ナオト、ナオト・インティライミ)
- ボランティアビレッジ終了祭・慰霊祭 / 実施日:10月16日、来場者:200人

【イベント支援】

熊本暮らし人まつり みずあかり(熊本城・南阿蘇・益城)、東無田夏祭り、
ハルーンでスマイルプロジェクト、ワン九州フェス、灯物語(南阿蘇)など



プロジェクト
07

仮設団地・竹あかり ワークショップ

リーダー
下田 沙知

地域で団らんプロジェクト。
『おたがいさま食堂』『お寺de落語』
との共同企画。

仮設団地内のコミュニティ作り、住民同士の交流の場として、『チーム熊本』
『ちかけん』『おたがいさま食堂』『お寺 de 落語』の4団体が協力すれば、丸一日、
様々な世代が楽しめる企画ができるのではということから開始。



● 活動内容&活動実績

Performance

【おたがいさま食堂】

食べたい人・作りたいたい人・語りたい人が
集まり、食卓を囲み、「食の質と心」を豊か
にし、健康で生き生きとした生活に繋げる
「こ食」から「共食」への取り組み。

【お寺 de 落語】

熊本のアマ落語家を中心に、落語寄席
の文化を広げていきたいと2014年5月
17日にスタートした活動。

【竹あかりワークショップ】

竹あかりを自作する体験ワークショップ。
夜は全員で点灯。益城町赤井仮設団地
(10月30日開催)では60名が参加。城
南町塚原仮設(11月6日開催)では70
名が参加。老若男女が集う。





プロジェクト

11 避難所・若葉小学校支援



リーダー
小出 静

若葉小学校の避難所運営のサポート。
物資支援、避難者のメンタルケア、自立の支援。

地震直後、避難所となった「若葉小学校」は運営を教職員が行っており、大変な状況だった。その後、自治会に運営を任せる際にサポートを依頼され、少しでも元気で明るい笑顔で新しい一歩を踏み出してもらえるように、被災者支援・避難所運営サポートを始めた。



● 活動内容&活動実績

【避難所運営サポート】

- 避難所内の滞在環境を良くするための清掃・整備活動 レクリエーション
- 民間ボランティアの受入れ(11団体41回)
- 支援物資の受入れ(13団体)
- 味噌汁の提供(40回2,000食)

【避難者への支援】

避難者への寄り添い活動、メンタルケア、避難者と行政の仲介。被災家屋の荷物の取り出し34件、掃除手伝い40件、引っ越し手伝い8件



プロジェクト

12 アップフィールド



リーダー
上野 和久
鍛島 静香

『崇城大学ボランティアビレッジ』にてボランティアや地域住民の交流の場を提供。

『チーム熊本』から『崇城大学ボランティアビレッジ』内への出店依頼をいただく。熊本市内でコミュニティーカフェ機能を持った飲食店の運営を行っていた経験から、支援活動のサポートとなればと思ひ、出店を決定。また、少しでも炊き出し活動を行いたいと思ひ。



● 活動内容&活動実績

【コミュニティーカフェの運営】

『崇城大学ボランティアビレッジ』のビッグテント内に、ボランティア同士や地域住民などが交流できるコミュニティースペースとカフェの提供。

【炊き出し活動と後方支援】

避難所での炊き出し活動。炊き出しチーム(災害救援ネットワーク北海道炊き出しチーム)の炊き出しサポート。

プロジェクト

09 支援活動マッチング・被災地案内・講演

全国と地元熊本のネットワークをフル活用し、支援者と被災者や活動団体を繋ぎ、「Win-Win」の関係を構築。

熊本地震直後、全国の仲間から「このような支援ができるが、必要とする人を紹介してほしい」「この団体を紹介してほしい」などの依頼が多数あった。「善意」が全国からしっかりと熊本へ届くように、熊本のネットワークをフルに活かし、人と人を繋ぎたいと考えた。



● 活動内容&活動実績

【支援活動マッチング】

全国の支援者(団体)と熊本の被災者・支援団体を繋いだ。「yahoo募金(熊本城・阿蘇神社・西原村グリーンヒル河原団地)」の立ち上げに協力。『NPO法人ボランティアインフォ』と福岡市役所を繋ぎ、ボランティアバスを実現。他、多数行つた。

【被災地案内】

熊本の現状を伝えるため、被災地案内を通して説明。来熊した全国の友人、支援者、企業・団体(日本航空、KIRIN、UZUの学校など)、著名人(ガクエムシー・サンドウィッチマン・Salyuなど)。積極的に講演、復興支援イベントに登壇。



プロジェクト

10 引っ越し



リーダー
富田 信吾

避難所・被災家屋(軒先避難)から仮設住宅・みなし仮設への引っ越しのサポートを行う。

被災当初は、瓦礫の撤去や道路整備、避難所の運営、物資の配送で忙しく、被災者が引っ越しの準備を整えても、引っ越しのサポートが出来なかった。その後、1日でも早く避難生活から新生活へ移行するための支援をしたいと思ひ、活動を開始。



● 活動内容&活動実績

【約320件の引っ越しサポートを完了】

- 被災者の新生活場所までの引っ越しのサポート
- 避難所・被災家屋(軒先避難) → 仮設住宅・みなし仮設へ





リーダー
坂本 洋展



プロジェクト

15

わんにゃんハウスのサポート

益城町総合体育館に設置されていた『被災ペットシェルター』にて動物の世話をを行う。

『わんにゃんハウス』を運営している団体が「人手不足で困っている」と、ペットを預けていた被災者を通して連絡が入り、サポートを開始。多くの避難所ではペットの受け入れができず、ペットを飼っている被災者の多くは、車中泊避難を選択せざるを得なかった。

● 活動内容&活動実績

【避難しているワンちゃんのお世話】

20匹。エサやり・水やり・ドッグランでの監視・散歩・ケージの掃除。

【避難しているネコちゃんのお世話】

7匹。エサやり・水やり・部屋で遊ばせる。上記を毎日行う。(活動期間:8月25日~10月1日)



リーダー
小笠原・連川



プロジェクト

16

anone あのね

熊本の民芸品を通じた文化復興と被災者の新生活を支援。

震災で大切にしていた器が割れた時、作り手のことが心配になった。形が壊れても、壊れない大切なものを見つけた気がして、「大切なものを大切にできる活動」ができないかを考えた。

● 活動内容&活動実績

【文化復興×新生活支援】

熊本の作り手(小代焼き・阿蘇工房・オープスタジオ)取材。冊子各30冊を作成。仮設住宅へ作り手の作品と冊子を届ける。新生活のための日用品をサポート(30件)。

【ボランティア派遣】

『国際民芸館』や熊本の作り手のもとへボランティアを派遣。

【展示会開催】

作り手とその作品を通して熊本の震災を知ってもらう展示会を全国で行う。旅まつり@東京(8月開催)、ルコ@山口県萩市・ウス@山口県下関市(11月開催)、ユージン@岡山県倉敷市(11月開催)、ユニー@北海道札幌市(予定)。



プロジェクト

13

くまモンカフェ・くまモンリュック

避難所・仮設団地にて、お茶会『くまモンカフェ』を開催。全国からの支援物資を「くまモンリュック」に詰めて届ける。

地震発生後、避難所で被災者への「メンタルケアで傾聴する人が必要」と先発で熊本に支援に入っている方から声がかかり、熊本へ行き、活動することを決めた。

● 活動内容&活動実績

避難所と仮設団地・集会所にて、お茶会『くまモンカフェ』を毎週定期開催(のべ1,643人参加)。全国からの支援物資を「くまモンリュック」に詰めて届ける(合計636個配布)。

【避難所】

プライベートスペースが確保しづらい日々の中で「何を話しても大丈夫な安心スペースを作る事」と「避難者さん同士のコミュニケーションサポート」を目的に開催。合計45回開催(熊本市3ヶ所/計12回、益城町6ヶ所/計35回)。

【仮設団地集会所】

初対面の住民も多かったので、顔合わせの機会、コミュニティ作りのお手伝いやメンタルケア・自立支援を目的に開催。合計41回開催(益城町:6ヶ所)。



リーダー
廣畑 輝臣



プロジェクト

14

炊き出し

『災害救援ネットワーク北海道』と協力し、熊本市及び益城町等の避難所を中心に炊き出しを行う。

熊本地震後、テレビなどで現地の情報を見て「支援が行き届いていない。食べられない人がたくさんいる。何とかしないと」と思い、現地入りを決めた。知人のご縁で『チーム熊本』と出会い、『崇城大学ボランティアビレッジ』に拠点を置き一緒に活動した。



● 活動内容&活動実績

【被災者向けの炊き出し】

熊本市・益城町の避難所を中心に、合計20ヶ所、約8,900食の炊き出しを行った。

【ボランティア向けの炊き出し】

『崇城大学ボランティアビレッジ』にて、日々活動するボランティアに食事を提供した。

リーダー
山口 幸雄





4/28



5/3



5/4



5/8



5/11



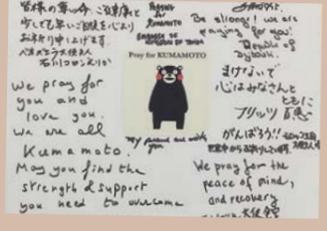
5/13



5/19



4/24



4/25



4/26



4/27



4/28



4/18



4/19



4/20



4/21



4/22



4/23



4/24



4/18



TEAM のメンバーが見た 地震後の熊本

2016年



4/16



4/15



4/16



4/17

2016年



12/23



9/7



8/7



7/5



6/18



6/1



12/24



9/8



8/9



7/13



6/19



6/3

2017年



1/15



9/21



8/19



7/15



6/23



6/7



10/10



8/25



7/25



6/28



6/8



2/11



10/15



8/26



7/27



6/29



6/9



10/30



8/30



7/28



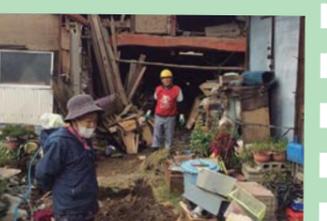
7/2



6/10



3/18



11/30



9/1



7/31



6/15



4/14



12/17



9/4



8/2



7/3



6/16

47



つながる心、広がる笑顔。

熊本地震・熊本支援チーム



BRIDGE KUMAMOTO ブリッジクマモト

BRIDGE KUMAMOTOは熊本のクリエイティブの力を結集し、未来を創造するために、熊本で、全国で、クリエイティブ、プロダクト、イベント企画などさまざまな活動を展開してきました。現在は一般社団法人チーム熊本から独立し、その活動はさらに広がりを見せています。

真っ赤な、あやとりの橋。熊本地震で阿蘇大橋は崩落してしまいましたが、「創造の橋は、すぐにかけることができる」との思いから、私たちのチームのシンボルとしてきました。たくさんの人たちに、あやとりの橋を作ってもらい「あやとりチャレンジ」は、もうすぐ参加者1,000人を超えます。被災地で活躍し、役目を終えたブルーシートで、コサージュを作るプロジェクトも進行中です。

加えて、これからは新たに「若者とソーシャルアクション(社会貢献活動)との架け橋」をつくっていきたく考えています。明るく前向きな復興支援のため、地域がもっと輝くためには、若いチカラと社会をつなぐことが必要不可欠だからです。

もうひとつ、私たちの活動を全国へ伝えていくことにも力を入れていきます。私たちは、東日本大震災の被災地でボランティアとして支援に携わった人々から、復興におけるクリエイティブの可能性と重要性を教えていただきました。次の地域へ、次の世代へ継承していくことも、私たちの大きな責任です。



2011年の東日本大震災を支援するために立ち上がった東日本大震災・熊本支援チーム。「東日本大震災の未曾有の災害を忘れてはいけない」「熊本で、できることは何か？」を考え、風化させないことを目的に、2011年3月の発足当時から、毎年一回、定期的に有志メンバーが集まり、復興支援活動などの情報交換や交流会を実施してきました。

そのような中で、2016年4月に熊本地震が発生し、熊本地震・熊本支援チームとして、組織名を変更して、本震発生の翌日から本格的な地域の被災者支援活動を展開しました。まさか、自分の街で大災害が起こるとは、思ってもいない中での被災でした。

熊本地震・熊本支援チームは、熊本地震での自らの被災体験から支援活動を通して学んだことを活かして今後も引き続き、年一回の定期報告会・交流会を開催していきます。

- ホームページ <http://kumamoto-team.net>
- お問い合わせ info@kumamoto-team.net



未来に向けて、これからの活動

地震発生から時間が経つにつれ、被災地のニーズは変化していきます。しっかりと寄り添いながら、「私たちだからできる支援活動」「民間だからできる支援活動」を、これからも続けていきます。

一般社団法人 チーム熊本

私たちは、熊本地震をきっかけとして、「日常の当たり前が、当たり前ではない」ことを思い知らされました。

熊本地震から1年が経過し、復旧・復興の状況も刻々と変わり、現在の状況は、各被災地・各被災者で全く異なっています。一般社団法人チーム熊本の活動の中には、被災地・被災者のニーズの減少に伴い終了したものもありますが、各チームのリーダーが必要だと判断した活動は、各チームが独自に行なっています。これからの動きとしては、各チームの活動をつなぎ、必要な人・モノ・情報を取りまとめ、各チームの活動が円滑に進むように動いていきたいと考えています。

また、現在も全国各地から、熊本への支援や視察の申し出を受けております。支援を必要としている団体や個人とつなぎ、今の熊本を伝えるスタディーツアーなども継続的に行なっています。

熊本に住む私たちだから「できること」「やるべきこと」を、この熊本地震をきっかけに、とても大きくなった「つながりの輪」を大切にしながら、郷土・熊本のために行動してまいります。

- ホームページ <http://team-kumamoto.com>
- お問い合わせ info@team-kumamoto.com



- ホームページ <http://bridgekumamoto.com>
- お問い合わせ info@bridgekumamoto.com

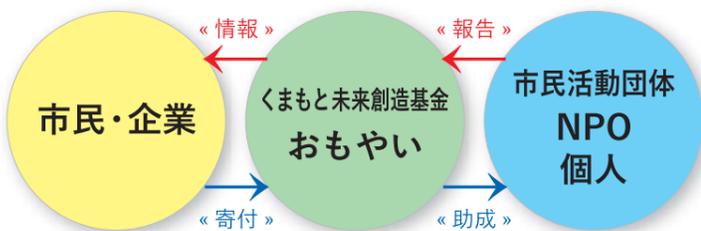


一般財団法人くまもと未来創造基金 おもやり

たくさんの支援活動を行ってきた中で、大きな課題の一つとなっていたのが「活動資金」でした。全国から多くの支援金を頂き、活動させていただいた一方で、地震時、熊本には市民活動への資金調達や寄付の受け皿となる組織がなかったことで、熊本のために、熊本に住む者が立ち上げた熊本の団体へ直接支援金が届かず、悔しい思いがあったのも事実です。

熊本の、熊本による、熊本のための基金をつくりたい。そんな思いから生まれたのが一般財団法人くまもと未来創造基金おもやりです。熊本の地震の支援活動や市民活動への「意思のある資金循環をつくる」ことを目的に、熊本初のコミュニティー財団を目指していきます。

【基金の仕組み】 意思のある新たな資金循環をつくる



- ホームページ <https://www.kumamoto-mirai.net>
- お問い合わせ 一般財団法人くまもと未来創造基金事務所 ☎096-340-1192

最後に…

私たちの支援活動は、
誰かひとりの力で実現できたものではありません。
地域、学術機関、経済界、
そして学生から人生の先輩たちまで
普段から多様な世界、幅広い人たちとの
“つながり”を築いていたことで、
この未曾有の危機に、
強い気持ちと柔軟な発想を持って
立ち向かうことができました。
民間の支援に“こうしなければならない”という
枠はありません。
それこそが、民間支援団体の強みだと考えます。

新しい支援のカタチを生み出す可能性は
すべての人が持っているのです。

講演依頼・スタディーツアー受付中

熊本地震のこと、
支援活動のこと、体験談などの
「熊本地震を伝える」
活動・講演を行っています。

また、被災地・熊本の現地に訪れていた
だき、「熊本の今を伝える」スタディーツ
アーの企画も随時行います。
お気軽にお問い合わせください。

info@team-kumamoto.com

支援金募集中

引き続き
一般社団法人チーム熊本へ
ご支援をお願いします。

皆様から頂きました支援金や物資は、当団
体の活動資金並びに各チームの被災者
への支援活動費に充てさせていただきます。

肥後銀行 池田支店 普通 347958

一般社団法人チーム熊本 代表理事 三城賢士
(カナ:イッパンシャダンホウジン チームクマモト ダイヒョウリジ ミシロケンシ)